

平成29年度事業報告

1. 国内関係（規定、環境問題、製品安全など）

(1) 「エアゾール等製品の試験方法」JIS 原案作成関係

経済産業省高圧ガス保安室から「エアゾール等試験検査要領」のJIS 制定化の要請を受け、日本規格協会の公募制度を活用し、JIS 原案作成委員会を組織して取り組んでまいりました。日本規格協会へJIS 原案を提出(平成29年6月23日)、JISC 専門委員会【日本工業標準調査会／第一標準部会／消費生活技術専門委員会(第13回)】の承認(平成30年2月9日)を得ました。4月答申、5月21日公示予定です。

規格番号;JIS S 3301

(2) 環境対応—エアゾール製品処理対策協議会（関連13団体）の活動 エアゾール製品の使用や廃棄方法などの広報関係

① 「ガス抜きキャップの使い方」に関する広報用DVD 作成について

ガス抜きキャップの装着率はほぼ100%に近いが、消費者による認知度は低く、今後重点的に啓発広報を行う必要があります。広報活動を強化する目的でDVD「豊かな暮らしとエアゾール ごぞんじですか？ガス抜きキャップ」を作成しました。自治体、消費者、学校関係等の広報に使用しております。

② 公益社団法人全国都市清掃会議関係

- ・定時総会(平成29年5月17,18日)の展示コーナーに参加し、広報活動として市民や消費者向けに行う「エアゾール製品を正しく理解・使用して正しく廃棄、安全、リサイクルの講座(無料)」の活用を紹介しました。
- ・全国都市清掃会議を訪問(平成29年8月22日)し、新たに作成した広報用DVDの紹介と、今後の活用について相談しました。研究・事例発表会及び全国7地区の研修会で上映紹介することとなりました。
- ・秋季評議委員会、臨時総会(平成29年10月2日)の展示コーナーに参加。広報活動として市民や消費者向けに行う「エアゾール製品を正しく理解・使用して正しく廃棄、安全、リサイクルの講座(無料)」の活用を紹介。新たに作成したDVDをパソコンにて上映、来訪者に配布しました。
- ・研究・事例発表会(平成30年1月24,25日)に於いて「使用済みエアゾール缶等の適正な廃棄処理に向けた業界の取組み」を論文発表し、新たに作成した「ガス抜きキャップの使い方」に関するDVDの紹介を行う(荻野副会長発表)と共に、聴講者全員にDVDを配布した。併せて、展示コーナーに参加し、広報活動として市民や消費者向けに行う「エアゾール製品を正しく理解・使用して正しく廃棄、安全、リサイクルの講座(無料)」の活用を紹介し、また、DVDをパソコンにて上映しました。

③ 東京消防庁多摩消防署関係

- ・東京消防庁多摩消防署主催-危険物安全週間「ふれあい防災フェスタ」の展示コーナーに参加(平成29年6月6日)し、ガス抜きキャップ、広報パネル、リーフレット、カセットこんろ等を展示し、正しい廃棄方法やガス抜きキャップの使い方などを説明しました。
- ・東京消防庁多摩消防署の依頼により、都立永山高校の防災キャンプ(平成29年9月29日)に参加し、一年生320名(4班編成)を対象に、エアゾール製品の基礎知識について講義を行い、ガス抜きキャップの使い方に関するDVDを上映し、ガス抜きキャップの使用体験実習を行いました。

④ 札幌市環境局関係

エアゾール製品処理対策協議会第6回総会に併せて協議会会員が札幌市環境局を訪問(平成

29年6月6日)し、エアゾール缶の廃棄に関する意見交換を行いました。

札幌市は、死亡火災事故を契機に、エアゾール缶回収方法を穴あけから穴あけなしに変更する試行を一部地域で行っていたが、結果が良好であり、平成29年7月から全市へ移行することとなりました。新たに回収後の処理を外部委託する費用が発生し、市上層部からは行政が負担する前に拡大生産者責任でメーカーが回収する制度を作るべきとの意見があったものの、人命優先の観点から変更を実施したとの事。

⑤ 京都大学によるヒアリング(平成30年3月19日)

京都大学は環境省の研究費にて災害廃棄物の実効性・安全性等について研究しており、廃棄時の安全性の観点からスプレー缶の平時の使用から廃棄実態について調査を行っております。ヒアリングの目的は、エアゾール製品に関する基本的な事項に加え、ライフサイクル、特に廃棄に関する市民や事業者、行政等との情報発信や周知などの取り組み状況の調査です。ガス抜きキャップの実装状況について、生産から流通・使用について、災害時の支援・広報について、大規模災害時の仮置き場での分別、回収・処理についての注意点や課題、支援状況について、平時の情報発信等についてヒアリングを受けております。

引き続き日本エアゾール協会はエアゾール製品処理対策協議会事務局として、このような講座を活用し市民や消費者への廃棄などの広報活動を進めてまいります。

(3) 地球温暖化防止関係(HFC-134a、HFC-152aのダストブローア製品の削減)

地球温暖化対策連絡会(メンバー:充填ローダー等)と共に、自主行動計画に基づき、対象ガスの集計を行い、経済産業省オゾン層保護等推進室へ提出しております。

既に制定運用している指定製品ダストブローア等の法定表示要領、不燃性限定用途の一液製品ダストブローア等(指定製品対象外)の自主表示要領に加え、地球温暖化ガスを用いた二液エアゾール製品の環境影響度の表示方法について自主表示要領を定め、平成28年4月1日より運用を行っております。これは、製品の安全性を確保し、環境影響度の低い代替ガスを使用した製品開発環境影響度の啓発取り組みを目的としております。

地球温暖化対策連絡会(メンバー:充填ローダー等)では、引き続きこの件に関し、経済産業省オゾン層保護等推進室に協力してまいります。

(4) 合同会議関係(当協会;充填部会、地球温暖化対策連絡会、技術委員会)

- ・平成29年8月9日第15回合同会議を開催し、武内プレス工業(株)による講演「当社アルミエアゾール缶の歴史と今後の取組み」と、地球温暖化ガスに関する規制関係、「エアゾール等製品の試験方法」JIS制定化、防水スプレーの吸引事故に関する日本中毒情報センターからの情報、エアゾール製品処理対策協議会の活動に付き説明会を行い、新たに作成した「ガス抜きキャップの使い方」広報用DVDを上映しました。
- ・平成30年2月5日第16回合同会議を開催し、経済産業省計量行政室・川端室長補佐による講演「計量行政審議会答申をふまえた計量制度の見直しについて」と、エアゾール等に係る自主行動計画・フロン類削減の取組み、産業構造審議会フロン類等対策WG(第12回)報告、「エアゾール等製品の試験方法」JIS制定化、エアゾール製品処理対策協議会の活動に付き説明会を行いました。

(5) 広報関係

① 芳香消臭脱臭剤協議会依頼の講演

第 40 回研修会「エアゾールと関連製品・感覚的消臭試験法に関する研修会」(平成 29 年 7 月 25 日開催、参加者:会員企業の実務者を対象にした研修会 約 70 名)に於いて「エアゾールの基礎知識と製品への応用」をテーマに当協会技術委員和泉田彰(小池化学株式会社技術部部长)が講演を行いました。

② 西日本化粧品工業会依頼の講演

直接の容器等の表示に関する講習会(平成 29 年 8 月 31 日開催、会員企業の実務者を対象にした講習会 約 700 名)に於いて「豊かな暮らしとエアゾール～高圧ガス保安法・適用除外要件に係る表示規定等について～」をテーマに当協会技術顧問太田浩(株式会社ダイゾーエアゾール事業部)が講演を行いました。

2. 海外関係

(1) 中国エアゾール展視察

中国包装連合会エアゾール委員会 (Aerosol Committee of China Packaging Federation) の招待により中国エアゾール展 (2017 The 8th International Aerosol and Metal Containers Exhibition) を参加視察いたしました。

(2) AAF (Asian Aerosol Federation) 会議関係

アジアエアゾール連盟 (AAF) は、豪州 (議長国)、日本 (副議長国)、中国、タイ、ニュージーランド、インドの 6 か国により構成されており、各国持ち回りで年 1 回会議を開催しております。

アジアエアゾール連盟(AAF) 第 8 回会議が、豪州(議長国)、日本、中国、タイ、インド、ニュージーランドの 6 カ国の参加により、タイ・バンコク (平成 30 年 2 月 12 日) で開催され、日本エアゾール協会は副議長国として参加致しました。また、インドネシア、バングラデシュ、マレーシア、シンガポール、FLADA から代表者がオブザーバーとして出席しました。

主な協議事項は下記となっております。

① 新規加盟国

マレーシアが協会設立に関心を示している。会議終了後、マレーシア代表者と AAF 会員による協会設立に関する質疑応答を行いました。

② ILC FEA スタンドアートの調和状況

ILC 会議にて選定された FEA の 2 つの試験法 (製品内圧測定、噴射量測定) について各国により調和作業が続けられております。

目加多副会長より、AAF 会議は各国の会長等代表が出席するが技術的な内容については AAF 内に技術委員会を組織し内容を電話会議等で議論したらどうか、との提案があり、次回会議で話し合うことになりました。インドは賛成しました。

③ 次年度の活動方針

- ・各国のエアゾール協会設立のサポートを続行
- ・ハーモナイゼーション

④ 2019 年 ILC 会議開催国

AIAJ は AAF が主催する ILC 会議を日本・東京で開催する旨、表明しました。東京の幕張メッセで AAF 会議も併せて開催(10月29日)し、30日には国際的な講演会を開催します。

⑤ 次回総会開催国：インド（予定）

- ・ 2019年2月インド・ムンバイ又はデリーにて開催。（予定）
- ・ 2019年10月日本・東京
- ・ 2020年11月香港（コスモプロフ開催時）
- ・ 2021年11月中国

(3) ILC (International Liaison Committee) 会議関係

国際エアゾール組織、HCPA(米国)、FEA (ヨーロッパ)、FLADA (南米)、AAF (アジア)との連携の一環で、ILC (International Liaison Committee) 会議に参加しております。平成29年は、メキシコ・メキシコシティにて平成29年9月19日に開催され、日本エアゾール協会は、AAFの代表として会議に参加しました。主な協議事項は下記となっております。

7) エアゾール試験法の統一化(Selection of three test methods to be harmonised)

FEAが提案した10の試験法について、各地区で3つずつ選定してきました。その中から最も投票数の多かった604、643を選定し、各地区で今後2か月位いでコメントをまとめることになりました。

604 Filled aerosol packs - Measurement of the internal pressure

643 Filled aerosol packs - Measurement of discharge rate

本件は、技術委員会にて取り組んでおります。

1) 世界のエアゾール生産数量の比較(Compilation of Aerosol Global Production)

次回から生産数量の書式を決め、集計することとしました。

2) プラスチックエアゾール(Plastic aerosols)

HCPAから、現在は自主基準を決め運用しているが、可燃性プラスチックエアゾールのデータを集計中、との報告がありました。FEAからは特にコメントはありませんでした。

3) FEAにおける50℃における最大製品圧力規制(Maximum internal pressure at 50℃)

FEAが昨年末に制定しました。各国に統一化の提案があったが、日本からは、国内法規制に抵触する旨を報告しました。

4) 最近のエアゾール工場事故及び安全性評価

(Exchange/learning on recent industrial accidents and safety measures)

2017年；5件の事故報告（UK 2件、南ア 1件、タイ 1件、マレーシア 1件）

2016年；3件の事故報告（ブラジル 1件、USA 1件、UK 1件）

上記事故事例についてメキシコから発表があり、今後共有したいとの発言がありました。

5) 次回 ILC 会議開催国

2018年 ドイツ・デュッセルドルフ

ILC 会議開催日；2018年10月6日(土)

(4) 2018年 FEA Global Aerosol Events 参加視察団結成

ドイツ・デュッセルドルフにて開催(2018年10月4,5日)される「FEA Global Aerosol Events」及び欧州エアゾール産業の視察を目的とした視察団結成に向け、準備を行っております。

(5) 2019年 ILC 会議及び AAF 会議開催準備

2019年に ILC 会議を開催すると共に、AAF 会議を開催することにつきまして第 248 回通常理事会にて承認を頂き、開催準備を開始いたしました。

開催案；ジャパンパック開催期間中（10月29日～11月1日）に開催します。

AAF 会議/ILC 会議 2019年10月29日（火）

講演会 2019年10月30日（水）

場所 幕張メッセ国際会議場

(6) 輸入エアゾール製品の「試験成績書」発行業務

当協会は、高圧ガス保安法一般高圧ガス保安規則第 45 条の 3 項、製造細目告示第 12 の 16 に基づく、輸入エアゾール製品の高圧ガスに関する適用除外要件の確認試験を行い「試験成績書」発行業務を平成 29 年度も引続き行いました。

(7) 輸入エアゾール製品の検査結果

当協会で行っている平成 29 年度の輸入エアゾール製品の検査結果は下記となりました。

	検査件数	月平均数
平成 24 年度	615	51
平成 25 年度	535	45
平成 26 年度	590	49
平成 27 年度	506	42
平成 28 年度	511	43
平成 29 年度	467	39